



民生児童委員としての活動が認められ
厚生労働大臣表彰を受賞！

11月13日、山科区民生児童委員会の前坂己美子会長が、令和2年度社会福祉功労者厚生労働大臣表彰を受賞されました。

これは、職務に精励し、その功績が特に顕著であると認められる民生児童委員に対して贈られるもので、長年にわたる社会福祉や児童福祉への貢献が認められたものです。

この度、大西山科区長から、日々の活動に敬意と感謝の意を表するとともに、その受賞を讃え表彰の伝達を行いました。

問合せ 区健康長寿推進課 地域支援担当
(☎592-3214)

鏡山学区自治連合会、京阪バス株式会社、
山科区役所が合同で
JCOMMマネジメント賞を受賞しました



●JCOMMマネジメント賞は、国内のモビリティ・マネジメント(MM)についての様々な取組に貢献した個人・団体を表彰するものです。

12月19日、鏡山学区自治連合会が中心となって活動を行っている鏡山循環バスのMM活動について、その継続性や地域住民が一丸となってバス利用促進を通じたコミュニティ活性化に取り組んでいることが評価され、受賞することとなりました。

●特に、鏡山小学校総合学習でのMM教育の実践は地域の将来を考える契機を創り出すとして高く評価されました。

その一環として、鏡山小学校5年生がバス停名や乗換案内をアナウンスする「子ども車内アナウンス」が開始されています。

子どもたちの元気の良い声が車内に流れていますので、お出かけの際には鏡山循環バスをご利用いただき、児童による車内アナウンスに耳を傾けてみてください。

※モビリティ・マネジメント：過度な自動車利用から公共交通等の適切な利用を促すコミュニケーションを中心とした活動



問合せ 区まちづくり推進担当 (☎592-3088)

特殊詐欺にご注意！

令和2年中、山科区では18件、合計約3,856万円もの特殊詐欺被害が発生しました。

▼こんな電話は詐欺です！すぐに警察に連絡してください▼

キャッシュカードの切替えの時期になりました。今からキャッシュカードを受け取りに行きます。

還付金を支払うので、暗証番号を教えてください。



山科警察署では、特殊詐欺被害抑止対策として、防犯機能付き固定電話の購入補助事業を実施しています。

補助金額 2,000円

対象 山科警察署管内の京都府電機商業組合加盟店で防犯機能付き固定電話を購入された方

問合せ 山科警察署 (☎575-0110)

次期山科区基本計画を策定中

～令和2年度第2回山科区民まちづくり会議を開催しました～



山科区では、令和3年度から5年間の山科区の地域づくりの指針となる「第3期山科区基本計画」の策定に取り組んでいます。

12月24日、東部文化会館において「第2回山科区民まちづくり会議」を開催しました。

当日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、午前と午後の2部に分けて開催し、参加委員の皆様には、そのご関心分野やご専門分野に応じて4グループに分かれ、7つのテーマ(基本施策)に関わる今後の具体的な取組等について活発に意見交換いただきました。

「第3期山科区基本計画」は、今後、パブリックコメント等を実施し、今年夏頃の策定を目指します。

問合せ 区総務・防災担当 (☎592-3066)

第70回 みんなで「第2期山科区基本計画」に取り組もう！
区民活動きずなリー

四ノ宮ゆかりの琵琶を次世代へ

平安時代に琵琶の名手であった人康親王が隠棲したと伝わる山科区四ノ宮。当連載の第53回(平成30年1月号)で取り上げたように、弦楽ふるさとの会は、その地元ゆかりの琵琶を通じてまちの歴史や魅力を伝える活動をしています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、山科でも様々な場面で市民活動に自粛や中止などの影響が出ている中、ミニ琵琶を製作し小学校などに寄贈するというプロジェクトを実施しているとのこと、代表の小谷昌代さんにお話を伺いました。

「これまで、四ノ宮散策や公演イベントなどで演奏することが多かったのですが、なかなか広まらないと感じていました。その大きな要因は楽器が身近にないということです。」
琵琶はシルクロードを通じて日本に伝来した楽器だと言われていますが、現在日本に琵琶製作を専門とする職人はとても少なく、古琵琶なども高額で取引され手に入りにくいとのこと。そのため、数年前から独自にミニ琵琶の製作にチャレンジしているそうです。

「材料も高価なので、使いやすさも考えてサイズを小さくした結果、持ち運びもしやすく、また子どもでも弾きやすくなりました。『四ノ宮物語』という琵琶弾き語り紙芝居を山科の全小中学校に寄贈済みです。楽譜もつけているので、あとは楽器さえあれば弾き語りができます。」
琵琶の弾き方や楽器について学べる動画もYouTubeで見られるようにしたそうです。

今回寄贈するのは小学校3校、大学の寮、子育て関連団体の計5か所。そのうちのひとつ、安来小学校では12月に5、6年生を対象に、様々な琵琶にふれるワークショップを開催したそうです。

「琵琶はウクレレよりも抑えるところが少なく、簡単です。今の子どもたちが興味を持ってくれれば、山科の歴史を次世代につないでいけるかもしれません。」

寄贈するミニ琵琶の内側には生徒たちがサインをしました。材料が揃ったら組み立ても生徒と一緒に実施するそうです。平安時代には皇族や貴族に愛された楽器、琵琶を、現代の山科で子どもたちが奏でる。歴史のロマンを感じますね。



(京都市まちづくりアドバイザー 佐藤友一)
問合せ 区総務・防災担当 (☎592-3066)